

工事費増 トンネル工事中断要請

11月08日 19時19分



県と広島市が出資する道路公社が発注したトンネル工事で、業者の見積もり内容を十分に踏まえず契約が結ばれたため工事費が不足している可能性のあることがわかったことを受けて、8日、地元の住民たちが道路公社などに対して、工事を一時中断するよう要請しました。

広島高速道路公社がおよそ200億円で発注した広島高速5号線のトンネルの建設工事では、公社と受注業者との間で工事費用の認識にずれが生じ、公社の担当者が業者の見積もり内容を十分に踏まえず、契約が結ばれた可能性が指摘されています。

これを受けて、現場付近の住民などおよそ10人が8日、道路公社を訪れ、工事を一時中断するよう求める文書を手渡しました。

この中で住民たちが、契約から着工までの経緯や費用の不足額を住民に説明するまでは工事を中断するよう求めたのに対し公社側は「中断する考えはないが頂いた意見については今後、文書で回答したい」と応えていました。

地元住民の池元美彦さんは「増額について十分な説明がないまま工事が進んでいるのが残念できちんとした説明を求めたい」と話していました。

また、広島高速道路公社の神田昌吾建設課長は「頂いた意見については県や市とも協議をしたい」と話していました。